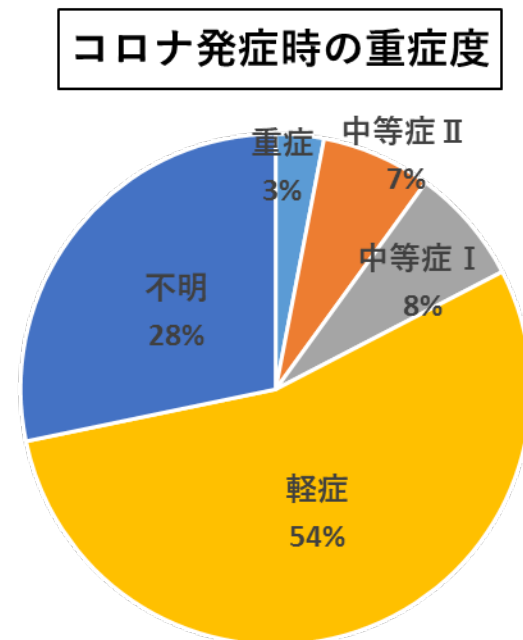
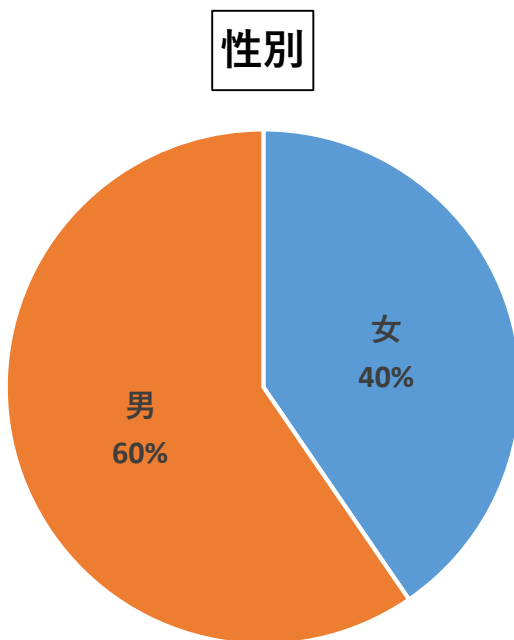
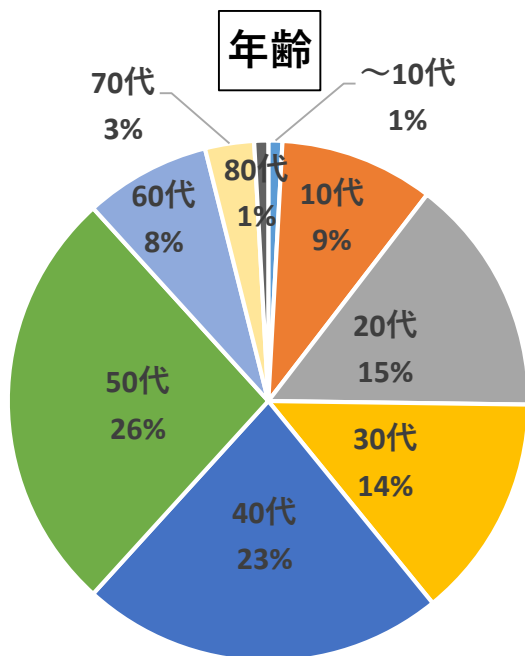


都立・公社病院の外来を受診した後遺症患者の症例分析

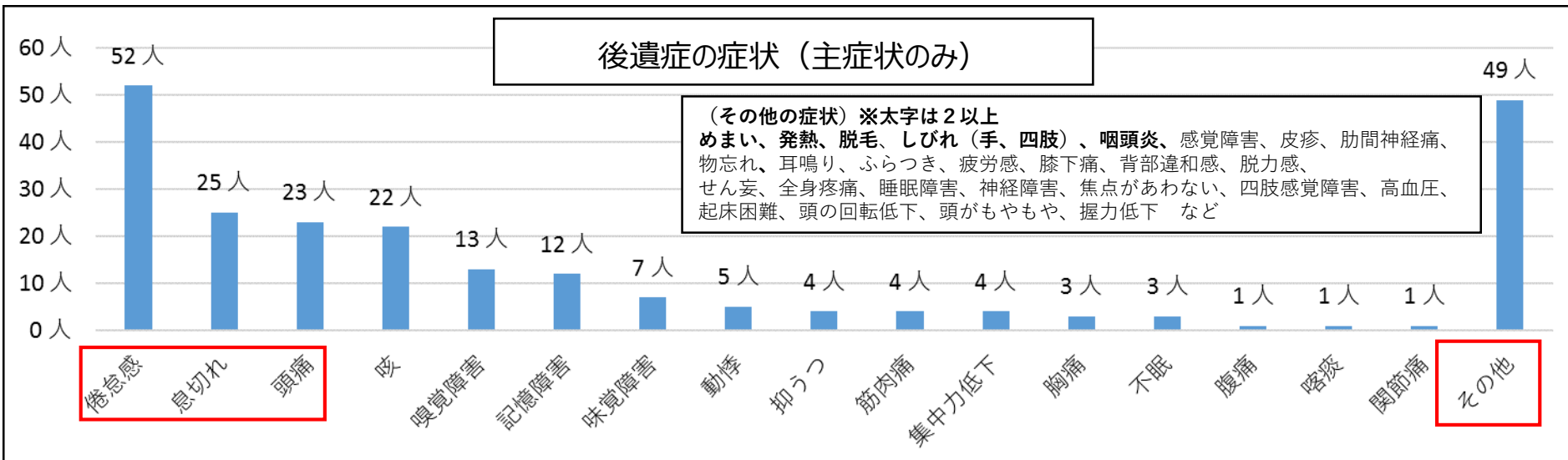
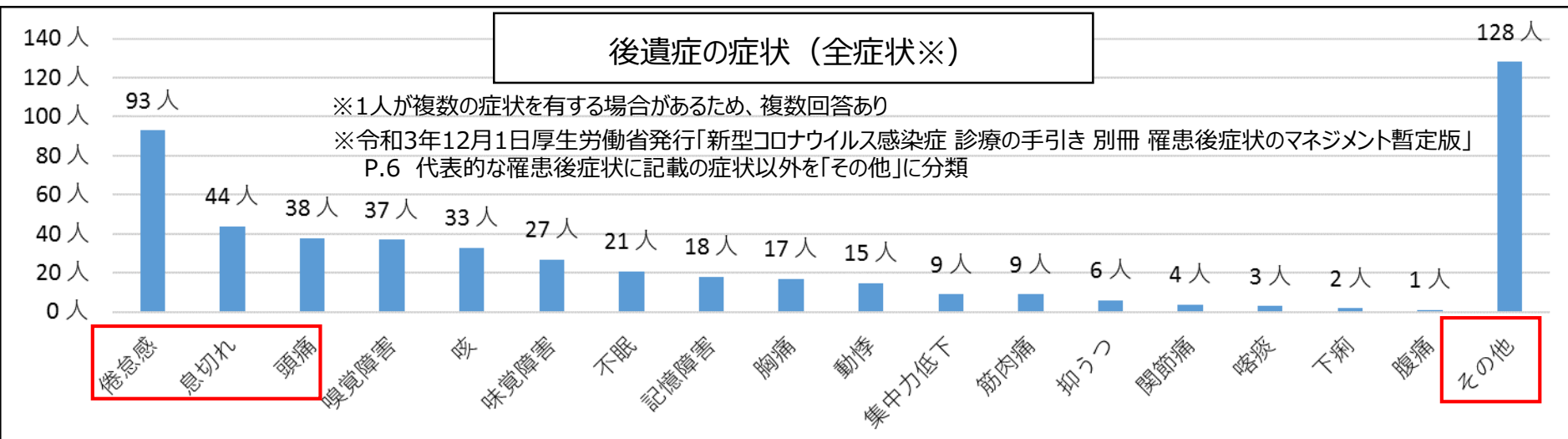
東京iCDC後遺症タスクフォースにおいて、都立公社病院の外来を受診した症例データをもとに、コロナの罹患後症状（いわゆる後遺症）について、分析を行った。

- **対 象**：都立・公社病院のコロナ後遺症相談窓口から自院の外来受診につながった症例など、都立・公社病院の外来を受診した後遺症が疑われる患者の症例
- **期 間**：令和3年5月10日～令和4年1月28日に受診した症例
- **症例数**：230例

基本情報 n=230



1-1 後遺症の症状

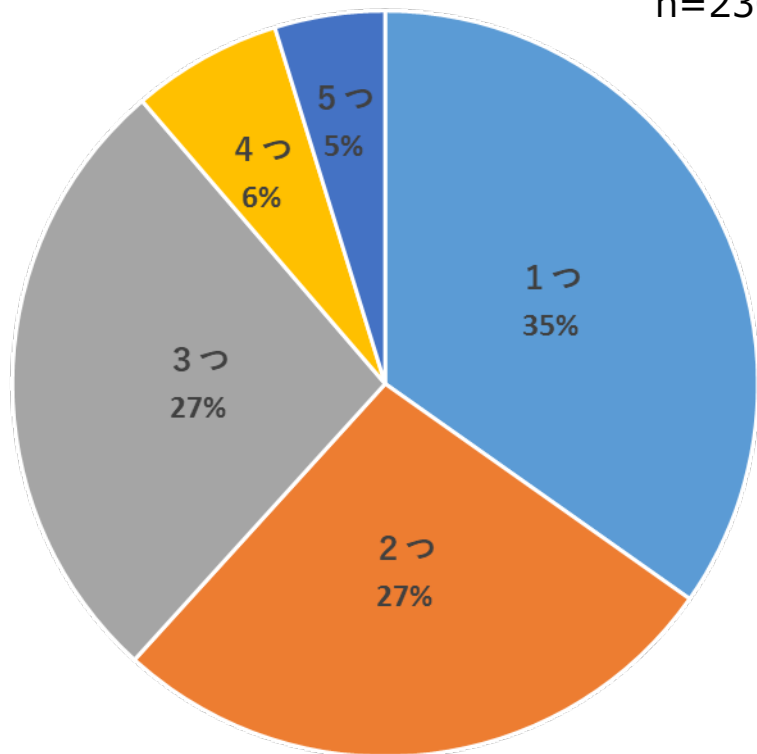


- 全ての症状の累計、主症状のみの累計ともに、倦怠感、息切れ、頭痛の順に多かった。
- 「その他」に分類される症状も多く、症状は多岐に渡っている。

1-2 後遺症の症状の数

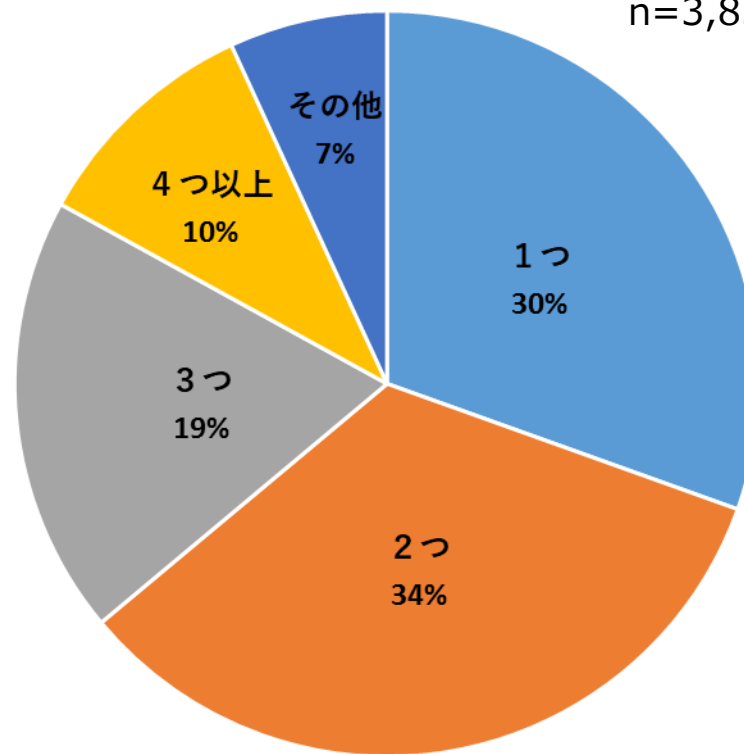
症状の数（症例データ）

n=230



訴える症状の数（相談窓口データ）

n=3,857



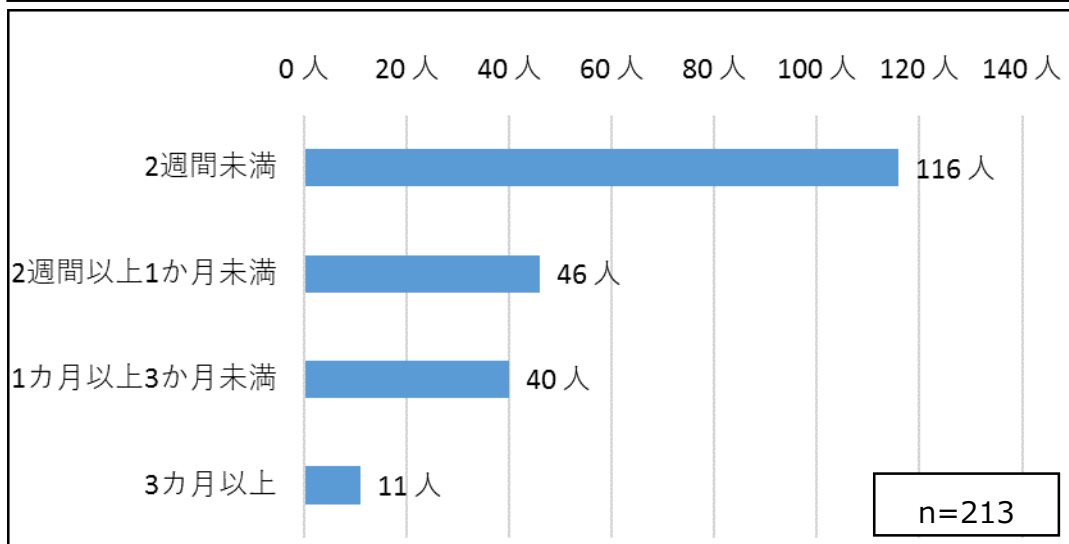
※ 「（第77回）東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議資料（令和4年2月3日）」より抜粋

- 全体の65%が2つ以上の症状を訴えており、全体の11%が4つ以上の症状を訴えている。（相談窓口データにおいても、相談者の63%が、2つ以上の症状を訴えている。）

2 後遺症の出現時期と改善状況

後遺症の出現時期（コロナ発症からの期間）

※コロナ発症時期、後遺症の出現時期が「不明」の症例は除く。
 ※後遺症の「主症状」の出現時期で集計



- 全体の約54%（116人）がコロナ発症から2週間未満であり、コロナ罹患時から症状が継続
- 全体の約46%（97人）がコロナ発症から2週間以上経過後であり、コロナ回復後に、後遺症の症状が出現

直近受診日における改善状況

※発症～受診日までの期間や、改善状況が「不明」の症例は除く。
 ※発症～直近受診日が1か月未満の症例は除く。

後遺症発症～ 直近受診日	受診後の状況			総計
	改善	症状継続	他院紹介	
1か月以上3か月未満	32	22	3	57
3か月以上6か月未満	31	25		56
6か月以上1年未満	5	6		11
1年以上		1		1
総計	68	54	3	125

- 発症から直近受診日までの期間は異なるが、全体の54%（68人）が直近受診日において改善
- 発症から3か月以上経過した人の改善状況をみると、改善36人、症状継続32人であり、約半数の方は症状が継続

3 治療・検査

後遺症の治療法は確立されていないが、都立・公社病院においては、症状に応じた検査・薬の処方など、対症療法を行っている。

※後遺症の「主症状」が当該症状となっている症例を集計

倦怠感 (n = 52)	
検査	血液検査33、胸部レントゲン17、脳・頭部MRI14、心電図11、脳波 7 など
処方薬	漢方薬23、抗うつ薬 5、解熱鎮痛剤 4 など
息切れ (n = 25)	
検査	胸部レントゲン20、血液検査14、心電図8 など
処方薬	漢方薬4、解熱鎮痛薬4、咳止め薬4 など
頭痛 (n = 23)	
検査	血液検査16、脳・頭部MRI9、心電図7、胸部レントゲン7、ヘッドアップティルト試験5 など
処方薬	解熱鎮痛薬9、漢方薬4 など

直近受診日における改善状況

※発症～受診日までの期間や、改善状況が「不明」の症例は除く。

※発症～直近受診日が1か月未満の症例は除く。

後遺症発症～ 直近受診日	倦怠感		息切れ		頭痛	
	改善	症状継続	改善	症状継続	改善	症状継続
1か月以上3か月未満	9	5	6	2	1	1
3か月以上6か月未満	8	4	2	1	9	5
6か月以上1年未満	1	1	1	2	2	2
1年以上		3				
計	18	13	9	5	12	8

○ 改善時期をみると、倦怠感は発症から1～3か月、3～6か月がほぼ同割合、息切れは1～3か月、頭痛は3～6か月の割合が最も高い。

4 症例紹介

※ 個人情報保護のため、個人が特定できないように加工している。

【改善】

通院し、対症療法を行い、時間の経過とともに症状が改善するケースがみられる。

30代女性 症状：頭痛、動悸、その他（めまい、ふらつき） 5か月で改善

- ・5月上旬にコロナ療養終了後、頭痛等が続き、7月中旬に受診
- ・9月上旬に精査入院し、各種検査を実施、高血圧・片頭痛治療剤を処方し、動悸はやや改善
- ・10月上旬の再診時には、症状は改善

40代男性 症状：嗅覚障害、味覚障害、倦怠感 1か月半で改善

- ・11月上旬にコロナ療養終了後、味覚・嗅覚障害、倦怠感が続き、11月下旬に受診
- ・血液、レントゲン検査を行い、ビタミン剤、漢方薬、咳止め薬等を処方し、経過観察
- ・12月中旬の再診時には、症状は改善

【症状継続】

コロナ療養終了後に重い症状が出現するケースや、症状がなかなか改善しないケースもみられる。

20代男性 症状：その他（神経障害）、頭痛、筋肉痛 症状が重く、専門医療機関へ入院

- ・コロナ罹患時は軽症だったが、7月上旬の療養終了から1週間後、倦怠感、筋肉痛、頭痛が出現し、歩行や座った姿勢を維持することも困難な状況となり、8月上旬に受診
- ・脳MRI検査等を実施、漢方薬や鎮痛剤を処方したが、症状継続のため、10月に専門の医療機関へ入院

50代男性 症状：その他（脱力感） 4か月经過で症状継続

- ・9月上旬にコロナ療養終了後から、身体に力が入らない状態が続き、10月下旬に受診
- ・11月上旬に精査入院し、各種検査を実施、ステロイド剤で筋肉痛消失、連続労作可能で握力も回復
- ・12月中旬の再診時に、症状が再燃し、1月上旬に再診の際にステロイド薬処方、やや改善
- ・2月に再診予定

5 まとめ

- 今回の症例において、時間の経過とともに改善がみられる事例がある一方で、コロナ罹患時よりも重い症状となる事例、症状が長期に遷延し、仕事などを休まざるをえない事例もみられた。
- コロナ発症時から1～2か月以上症状が継続するなど、後遺症が疑われる場合は、無理な活動は避け、かかりつけの医療機関や「コロナ後遺症相談窓口」等へ相談を。

【後遺症リーフレット】

- 都では、後遺症の症状、体験談、データや相談窓口等を紹介する「後遺症リーフレット」を作成し、HP上で公開

